

2022年度 経営計画の概要

2022年4月



沖縄電力株式会社

目 次

1 .経営方針の概要

P1

2 .経営理念

P2

3 .財務目標

P3

4 .重点施策

P4

5 .重点的に取り組む事項

P10

(参考) ESG (SDGs) への主な取り組み

P14

- 当社は、おきでんグループの「目指すべき姿」の実現および2025年度の財務目標の達成に向けて、中期経営計画の着実な実行に、積極果敢に取り組んでまいります。

おきでんグループ 中期経営計画2025



※G各社はおきでんグループ中期経営計画2025に基づき、経営方針を策定

沖縄電力 経営方針

【重点施策】

トップラインの拡大

攻めの効率化

エネルギー安定供給の更なる強化

カーボンニュートラルへの挑戦

【重点的に取り組む事項】

1. エネルギーの安定供給を目指して

5. 社員力・組織力の向上を目指して

2. 更なる売上拡大・競争力強化を目指して

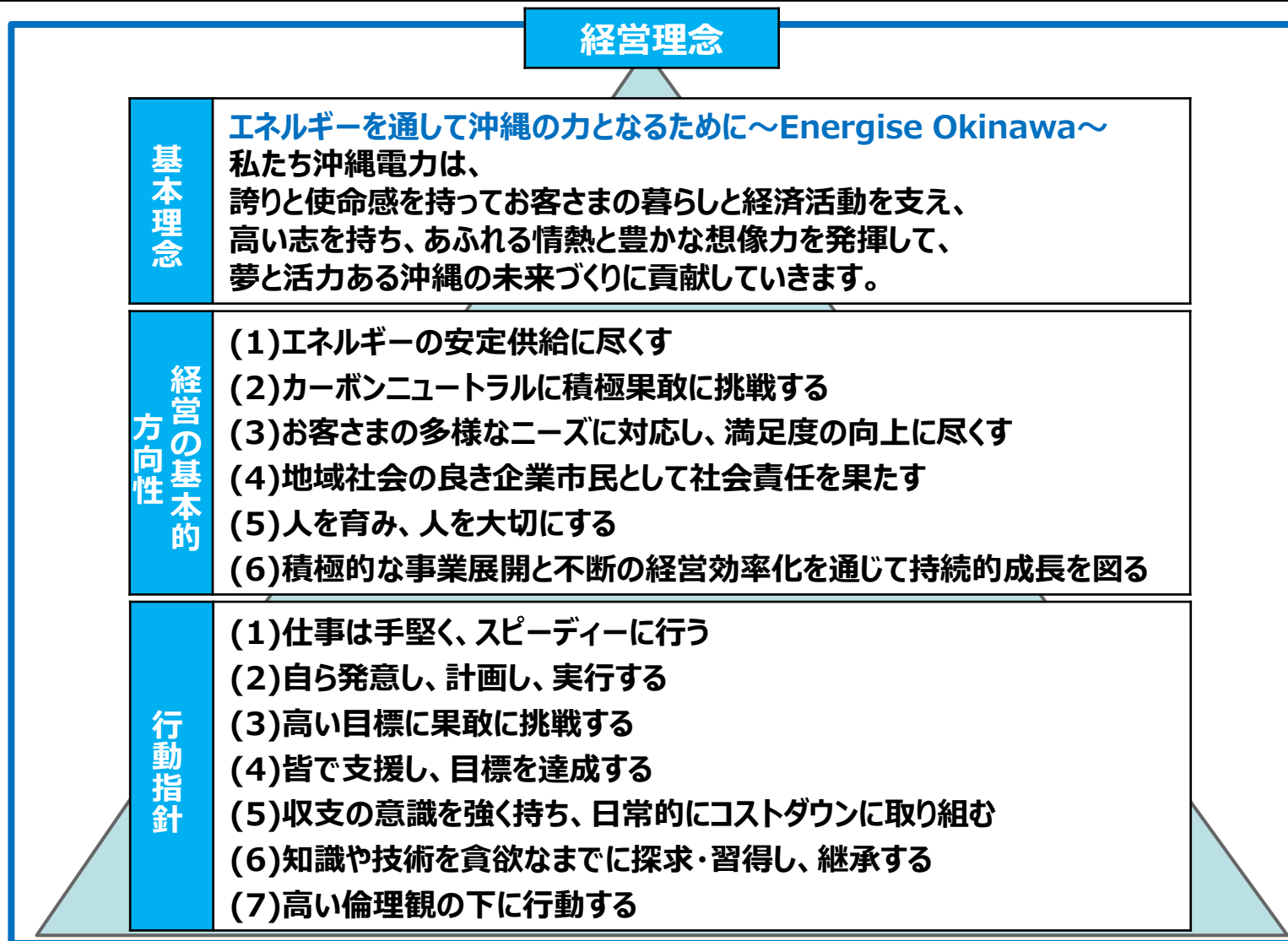
6. 社会・地球環境との調和を目指して

3. コスト構造の抜本的改革を目指して

7. グループ経営の強化を目指して

4. お客様の満足度向上を目指して

- 経営理念は、当社が社会に対してどのような価値を提供するのかを表した「基本理念」、その使命を実現するために経営の軸として堅持することを表した「経営の基本的方向性」、役職員一人ひとりが心がけるべき「行動指針」からなります。



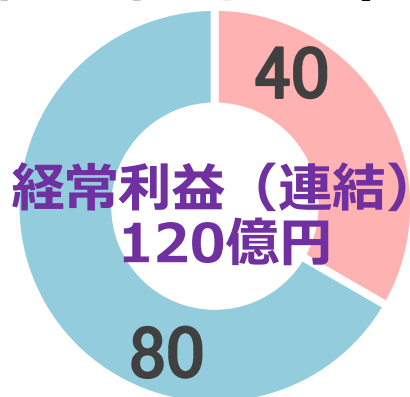
- おきでんグループの「目指すべき姿」の実現に向けて、新たに策定したおきでんグループ中期経営計画2025に基づき全役職員一丸となって施策を実施し、収益性や資本効率の改善等の経営課題の解決に向け取り組み、2025年度の財務目標の確実な達成を目指します。

目指すべき姿

総合エネルギー事業をコアとして、ビジネス・生活サポートを通して新しい価値の創造を目指し、地域に生き、共に発展する一体感のある企業グループとして、持続可能な社会の実現に貢献します。

財務目標

事業ポートフォリオ（2025）



財務目標（連結）	2025年度
経常利益	120億円以上
ROE(自己資本当期純利益率)	5%以上
自己資本比率	30%台を維持

- ▶ 今年度の経営方針においては、当社の基本的使命である「エネルギーの安定供給の更なる強化」に加えて、新たに策定したおきでんグループ中期経営計画2025にて定めた大きな方向性である、「トップラインの拡大」、「攻めの効率化」、「カーボンニュートラルへの挑戦」を“重点施策”とし、「おきでん.COM」の考え方をもとに取り組みます。

【重点施策】

トップラインの拡大

攻めの効率化

エネルギー安定供給の更なる強化

カーボンニュートラルへの挑戦

【重点的に取り組む事項】

1.エネルギーの安定供給を目指して

5.社員力・組織力の向上を目指して

2.更なる売上拡大・競争力強化を目指して

6.社会・地球環境との調和を目指して

3.コスト構造の抜本的改革を目指して

7.グループ経営の強化を目指して

4.お客さまの満足度向上を目指して

おきでん.COM



目標達成に向けた取り組みの考え方（「おきでん.COM」の考え方）

- 「おきでん.COM」の考えのもと、新たな価値の創造を図り、目指すべき姿・財務目標の達成に向けて取り組みます。



Convert（デジタル化）「まずやってみる・変えてみる」

- ✓ DXの推進、業務プロセスの見直しにより、コスト構造の転換、業務の高度化、更なる効率化を目指します



Optimize（最適化）「つなげる・つながる」

- ✓ サプライチェーン全体を俯瞰した、グループ内外のビジネス連携強化、更なる最適化を目指します



Make（価値創造）「価値を創る」

- ✓ 「おきでん.COM」の考えのもと、新たな価値の創造、競争力の強化を目指します

トップラインの拡大

- ▶ 当社が持続的に成長していくために、新たに策定した中期経営計画（おきでんグループ中期経営計画2025）に基づき、トップラインを拡大していく必要があります。
- ▶ 電気事業においては、「うちな〜CO₂フリーメニュー」や「おきでんmore-E」ポイントサービスなどによる電気プラスαの価値提供により、お客さまの満足度向上に資するサービスおよび他事業者とのアライアンス等の販売拡大策を戦略的に展開して、自由料金メニューへの移行を推進していきます。
- ▶ また、電気とガスの両方を供給できる総合エネルギー事業者として、CO₂削減、安定供給、BCP※(事業継続計画)強化といった利点を持つエネルギーセンターによる面的供給など、おきでんグループの技術を集結したエネルギー供給にも注力していきます。 ※Business Continuity Plan(事業継続計画)の略称
- ▶ 激しい競争の中においても、グループの既存事業の売上拡大に加え、吉の浦ー牧港間のガス導管の敷設によるガス供給、グループ資産の有効活用やヘルスケア事業など、将来に向けた新規投資案件や新規事業の具現化に向け取り組み、グループ全体で「トップラインの拡大」を図っていきます。

「おきでんmore-E」サービスの概要

Eね!! ① 「おきでんEポイント」を貯める・使う 当社から電気を購入もしくは当社と売電契約を行う会員のお客さまは『おきでんEポイント』が貯まる! 貯まったポイントは、地域のスーパーや交通機関等とのポイント交換やスポーツチームの応援、社会活動等の寄付に利用できます。(現在15社・団体と提携)	Eね!! ② 見える化サービス 電気料金や電気使用量、太陽光の売電料金や売電電力量のグラフ表示、よく似た家庭との電気使用量比較などエネルギー診断が行えます。
Eね!! ③ 情報提供サービス 暮らしに役立つコラムや地域の情報を掲載	Eね!! ④ 参加型サービス 各種キャンペーンやイベント、アンケートに参加してポイントゲット!!

「おきでんmore-E」の今後の取り組み

Act ① さらなる付加価値の創出 ポイント提携先の拡充や各種キャンペーン、イベント等を通してさらなる付加価値を創出してサービスの向上を図ってまいります。	Act ② さらなるサービス利便性の向上 お客さまによりサービスを楽しんでいただけるよう操作性等を改善を図ってまいります。
Act ③ さらなる地域活性化への貢献 地域で活動する企業、団体、ヒト、モノ、コトとの連携やコラム等での情報発信を通して地域活性化に貢献します。	沖縄電力会員サイト おきでんmore E おきでんモアイー 🔍 検索 【お問い合わせ】おきでんmore-E事務局（フリーコール） TEL. 0800-170-8004 （受付時間）月～金 10:00～17:00 ※祝日、慰霊の日、旧盆（旧暦 7/15） 年末年始（12/29～1/3）を除く ↑ 詳しくはコチラ ↑

攻めの効率化

- コスト低減と効率化は企業として永続的に取り組むべき課題であり、全社一丸となって抜本的かつ継続的なコスト低減と業務効率化を推し進めます。
- 「おきでん.COM」の考えのもと、「おきでんDX」による人財とデジタル技術等を活用したビジネス刷新を推進し、より付加価値の高い領域にリソースを向ける「攻めの効率化」を積極的に行いながら収益性の向上を図ります。
- 修繕費は減少傾向にあるものの、長期的には設備の増加・高経年化等に伴い設備関連費用（修繕費・減価償却費）の増加が見込まれているため、各部門で自律的に設備関連費用の持続的な抑制に取り組めます。
- イニシャルコスト、ランニングコストを総合的に勘案し、トータルコストの低減、予見可能な修繕工事の計画的な対応、長期的に利益が確保できるよう減価償却費の平準化を検討した効率的な設備形成、他社効率化施策の当社への導入等に取り組んでいきます。

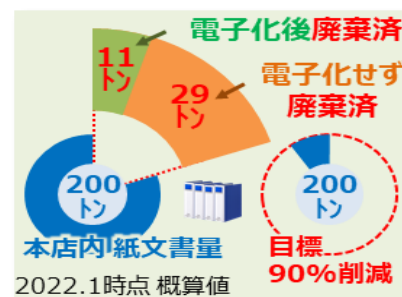
おきでんDXによる効率化事例(稟議電子化・デジタルファースト)



稟議電子化による効率化
(手続き・配送・滞留時間等)



人件費 約200万円/年 低減



紙文書の電子化・廃棄
(デジタルファーストPJ実績)

紙文書(200トン)保管コスト：
約800万円/年

用紙購入実績：約1千万円/年

※CO2換算：約27トン/年

文書電子化で上記を低減

適切かつ速やかな意思決定でビジネスを加速！

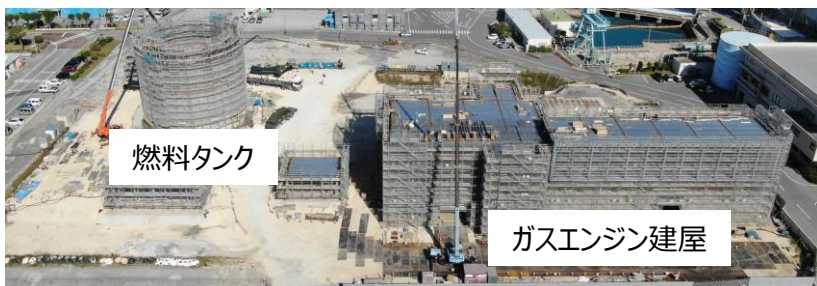
エネルギー安定供給の更なる強化

- ▶ いかなる経営環境下においても、お客さまの暮らしや経済活動を支えるエネルギーの安定供給という当社の基本的使命を堅持し、その実現に向け全力で取り組みます。
- ▶ 牧港ガスエンジン発電所の建設や社会的要請も高い無電柱化工事の実施などを着実に実施し、更なる安定供給の実現に向けて取り組みます。

牧港ガスエンジン発電所の建設

供給信頼度の向上を目的として、老朽化した牧港ガスタービン1号機の代替となる牧港ガスエンジン発電所を建設しています。

- 立地点：牧港火力発電所構内
- 発電設備：ガスエンジン発電設備
- 発電出力：45,000kW
- 使用燃料：天然ガス
- 環境配慮：
 - ①天然ガスを使用することで、石油、石炭と比較してCO₂の発生が少なく、SO_xも発生しません。
 - ②石油、石炭と比較してNO_xの発生は少ないが、更に脱硝装置を設けることでNO_x排出量を低減します。
 - ③発電設備の冷却にラジエーターを用い、海水を使用しません。
- 建設工程：造成工事開始 2021年1月
商用運転開始 2024年3月（予定）

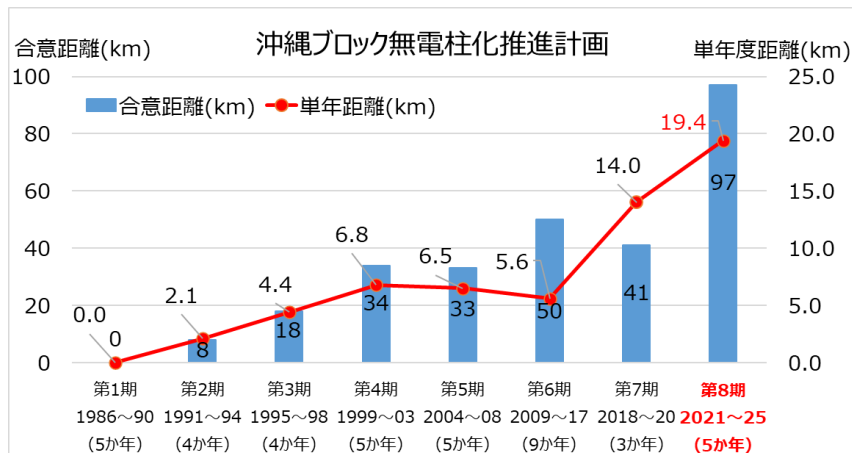


無電柱化工事の実施

沖縄ブロック無電柱化推進協議会では、第8期無電柱化推進計画として約100kmの路線を整備するとの合意が図られました（2021年12月24日）。過去の計画と比較して非常に高い目標値であるものの、台風常襲地域である沖縄において、安定供給を求める社会的要請と受け止め、これまで以上に無電柱化の推進を図っていきます。また、新たに全国大で実施することとなった電線管理者自らが行う無電柱化についても今回計画より計上しており、着実に計画を実施していきます。

〔無電柱化の目的〕

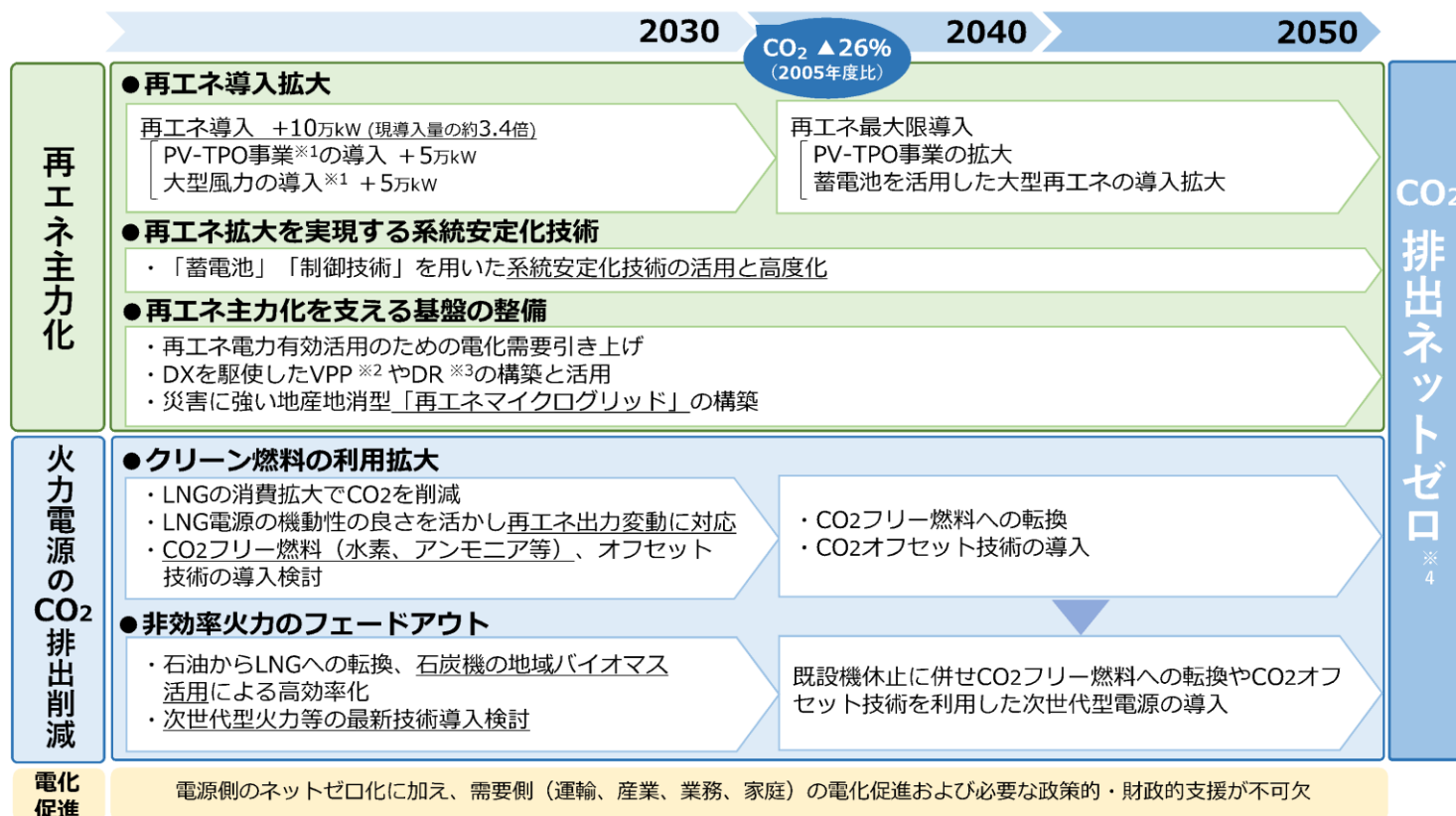
- 防災性の向上
- 安全で快適な歩行空間の確保



カーボンニュートラルへの挑戦



- 地球温暖化対策への社会的な要請が一層高まっている中、当社は長期的な指針となる「沖縄電力 ゼロエミッションへの取り組み」に基づき、2050年カーボンニュートラルを目指し、「再エネ主力化」および「火力電源のCO₂排出削減」の2つの方向性および「電化促進」に取り組みます。
- チャレンジングな目標の達成に向けて、当社は今まで培った技術を活かし、そして新たな技術の導入で持続可能なエネルギーシステムを構築し、安定供給と地球温暖化対策の両立に取り組んで社会へ貢献していきます。



※1 PVと蓄電池を無償で設置し、発電した電気をお客さまに販売するサービス。PV-TPO、大型風力ともにグループ会社にて実施予定。

※2 バーチャルパワープラント（Virtual Power Plant）の略で、多数の小規模な再生可能エネルギー発電所等をまとめて制御・管理することで、一つの発電所のように機能させること。

※3 デマンドレスポンス（Demand Response：DR）の略で、経済産業省によると「卸市場価格の高騰時または系統信頼性の低下時において、電気料金価格の設定またはインセンティブの支払に応じて、需要家側が電力の使用を抑制するよう電力の消費パターンを変化させる」ことと定義されている。

※4 再エネ電源とCO₂フリー燃料やCO₂オフセット技術を取り入れた火力電源との組み合わせにより、CO₂排出ネットゼロを目指す。

※ 必要技術の確立と経済性の成立の両立が条件となります。条件の成立に向けても鋭意検討に取組んで参ります。また、先進技術の開発ならびに導入には政策的・財政的支援が必要となります。

1. エネルギーの安定供給を目指して

- 社員一人ひとりが、「総合エネルギー事業者」としての自覚を強く持ち、環境への配慮および経済性の同時達成を図りつつ、電気・ガスの安定供給に全力で取り組みます。
- 「S+3E」の観点に加え、2050年カーボンニュートラルに向けた「再エネ主力化」および「火力電源のCO₂排出削減」を踏まえた最適な電源構成のあり方を検討します。
- 再エネ主力化に向けた系統安定化技術の活用と高度化および基盤整備のための設備投資を進めます。
- 協力会社も含め、グループ一体となった技術者・技能労働者の安定確保に向けて、有効な施策の立案および展開を図ります。
- 供給設備の事故や非常災害等の場合には、部門を超えて、全社一丸となって迅速な復旧に向け取り組みます。
- 台風やサイバー攻撃等の不足の事態に備え、電力の安定供給に支障が生じることのないよう対策を実施します。

2. 更なる売上拡大・競争力強化を目指して

- 競争が進展していく中、電気とガスの両方を供給できる総合エネルギー事業者としての強みを最大限に発揮して、お客さまのニーズに沿った競争力ある料金・サービス等を提供することで、更なる販売拡大に全社を挙げて取り組みます。
- プロモーション活動の積極展開や社外パートナーとの連携強化により、オール電化・ハーフ電化を強力に推進します。
- 太陽光発電と蓄電池を組み合わせた「かりーるーふ」にオール電化を加えた新たな電化提案を進めます。
- ガス供給事業における新たな販売スキーム、他事業者とのアライアンスについて積極的に検討・実施します。
- 販売力の強化に向けた人財育成・活用等に取り組みます。
- 経営資源を活用した収益化について検討・実施します。

3. コスト構造の抜本的改革を目指して

- 競争力の強化に向けて、サプライチェーン全体での最適化の視点で、抜本的かつ継続的なコスト低減と業務効率化を推進します。
- 設備計画の精度向上を図るとともに、収益性を評価した設備更新など、戦略的・効率的な設備形成によりトータルコストの低減を図ります。
- 新託送料金制度に適応したコスト構造の転換、安定供給・サービスの実行に取り組み、安定収益の確保に取り組みます。
- 「おきでん.COM」の考えのもと、「おきでんDX」による人財とデジタル技術等を活用したビジネス刷新を推進し、より付加価値の高い領域にリソースを向ける「攻めの効率化」を積極的に行いながら新たな価値創造に取り組みます。
- 本島・離島における燃料費の更なる低減に向けた施策の検討、実施に取り組みます。

4. お客様の満足度向上を目指して

- 自由料金メニューへの移行を推進していくとともに、お客様満足度をより高める電気プラス α の価値の提供に取り組みます。
- 経営効率化のためにあらゆる努力を行い、競争力のある電気料金水準の確保に向けて、役職員全員が一丸となって取り組みます。

5. 社員力・組織力の向上を目指して

- 当社の事業運営に関わる全ての者の「安全」が最優先事項であることを強く認識し、安全確保の徹底および「健康経営」の実践による従業員の心身の健康を確保します。また、適切な人材育成や社内インフラの整備等を通じて、持続的成長の原動力となる社員力・組織力の向上を図っていきます。
- 社員一人ひとりが日々の業務の中で、当たり前のことを決して疎かにせず、徹底的にやり遂げることはもとより、社内コミュニケーションを十分図りながら、各部門が適切に連携して業務に取り組みます。
- 持続的成長に向けた組織体制の構築、新技術の研究や経営管理の充実等に向けて検討します。

6. 社会・地球環境との調和を目指して

- 社会との調和を保ちつつ、良き企業市民として事業活動を行うために、すべてのステークホルダーに対し責任ある活動を展開します。
- 事業運営に係る各種法令の遵守および企業倫理意識の向上に努め、全役職員が不断の取り組みとしてコンプライアンスの徹底・強化に向けた取り組みを継続します。
- 人権が尊重される持続可能な社会の実現に向け、事業活動を通して社会的責任を果たします。
- 地球環境に対し責任ある企業として、「沖縄電力 ゼロエミッションへの取り組み」に基づき2050年カーボンニュートラルを目指すとともに、地域環境保全および循環型社会形成などに取り組みます。

7. グループ経営の強化を目指して

- グループ事業の自律的な発展に向けて、事業環境の変化に迅速かつ適切に対応するために、グループ事業の支援を強化していきます。
- 新規事業、新規投資の積極的な検討・展開など事業領域の拡大に取り組めます。
- グループ会社も含めたサプライチェーンでの効率化・収益拡大に取り組めます。
- 「おきでん.COM」の考えのもと、新たな価値の創造、競争力の強化に向けて、グループ一丸となって取り組めます。

- 当社は、「重点施策」および「重点的に取り組む事項」を着実に実行することで、ESG (SDGs) への取り組みを積極的に推進していきます。

E(環境)

環境負荷低減に向けた取り組み

- 県産木質バイオマス燃料の利用拡大に向けた取り組み
- CO₂フリー燃料(水素・アンモニア等)の利用技術の調査
- 地域環境の保全と循環型社会形成に向けた取り組みおよび環境管理の充実 など

S(社会)

地域・社会への貢献、人財、安全健康

- 職場構内の環境整備
- 「健康経営」の効果的な取り組みに向けたところからの健康支援施策の更なる推進
- 人権を尊重したCSR調達の取り組み
- 安全文化の浸透と安全管理の徹底 など

G(ガバナンス)

ガバナンス強化

- コンプライアンスの徹底・強化に向けた取り組み
- サイバーセキュリティ対応強化に向けた取り組み など



【重点施策】

トップラインの拡大

攻めの効率化

エネルギー安定供給の更なる強化

カーボンニュートラルへの挑戦

【重点的に取り組む事項】

1. エネルギーの安定供給を目指して

4. お客様の満足度向上を目指して

7. グループ経営の強化を目指して

2. 更なる売上拡大・競争力強化を目指して

5. 社員力・組織力の向上を目指して

3. コスト構造の抜本的改革を目指して

6. 社会・地球環境との調和を目指して